



● 草の根パートナー型

平成18年度第1回 採択内定案件

I.提案事業の概要	
1.国名	カンボジア
2.事業名	女性による野菜共同生産・出荷を通じた農村振興プロジェクト
3.事業の背景と必要性	これまでのIVYによる取り組みの結果、活動対象地域14村において女性組合が成立しており、組合内では自助グループによる相互扶助活動により世帯間の連携が促進され、農業学習会メンバーを中心に家庭菜園に関する知識・技術が養われてきている。現在対象村では、9割以上の世帯で家庭菜園が行われており、その一つ一つは小さな規模にとどまっているが、世帯間の協力を得、組合によって収穫野菜の集荷を行うことで、まとまった量を確保でき、市場へのお荷も可能となる。 そこで、本プロジェクトでは、前プロジェクトで確立した農業グループ網や世帯間協力を礎として、家庭菜園での販売用の野菜栽培を推奨し、組合組織の力をもって収穫野菜の集荷、共同出荷を事業として行う。この事業により生産者に収入向上をもたらすとともに組合が収益を上げる仕組みを確立し、組織の自立発展性を強める。
4.事業の目的	女性組合による野菜の共同出荷体制の確立
5.対象地域	スバイリエン州スバイチュルン郡内20村：チューティール地区12村、ドンソー地区2村、その他新規3地区（スバイエ地区、スロック地区、ポティレック地区）から各2村
6.受益者層	女性組合員世帯（約1,500世帯）
7.活動及び期待される成果	<ol style="list-style-type: none"> 共同出荷の普及モデルが考案される。 対象村20村から4村を実験村として選定する。共同生産・出荷事業を試行的に実施し、各村でそれぞれの生産・出荷モデルが構築される。（他の対象村は、自分たちの村に適したモデルを選び、事業を行う。） 共同出荷を指導する人材が育成される。 事業参加者から共同出荷を統括する経営チームを選び、事業経営のトレーニングを行う。また、事業対象の20村が集まる情報交換会議を開催し、各村における取組の成果や経験の共有を図る。 生産者が販売に向けた野菜栽培技術を獲得する。 事業参加者から野菜生産に携わる生産者チームを選び、定期的に野菜栽培技術のトレーニングを行う。また、村間で技術交換のための視察を実施する。 野菜が安定的に出荷され販売される。 事業参加者の中でマーケティングチームを決め、市場調査を行う。買い叩きを未然に防止するため仲買人とのミーティングを定期的に行うと共に、販売促進のための活動を行う。また、スバイリエン州農業局と共催して農業祭を開催する。 スバイリエン州農業局との連絡・情報網が強化される 定期的に公式・非公式の協議を行い、野菜栽培技術や販売に関する情報や助言を得る。また、IVYと農業局とが連携して各村のモニタリングや評価を実施する。 <p>※新規対象村における活動 既存の組織化プロセスを踏襲し、女性自助グループの形成を経て、一年後に女性組合リーダー選出のための選挙を開催する。新規援助対象村にて女性組合成立後、20村の代表を集めた総代会、交流会の中で地産地消、産消連帯運動を提案する。</p>
8.実施期間	2007年1月～2009年12月（3年）
9.事業費概算額	49,259千円（予定）
10.事業の実施体制	州農業局、郡長、地区長と連携を取りながら、IVYカンボジア事務所が直接事業を行う。目標達成のため、プロジェクトは、女性組合メンバーの中から農業ビジネスの指導者を養成する。プロジェクトの進捗状況に応じて、指導者研修の際、州農業局などに人材派遣などの協力を要請する。農業専門家の派遣、労務など活動全体のサポートはIVY本部が執り行う。
II.応募団体の概要	
1.団体名	特定非営利活動法人 国際ボランティアセンター山形 (IVY)
2.活動内容	カンボジアでの農村開発活動 日本国内での定住外国人支援、国際理解教育、環境教育、国際イベント